









このエッセイは、総合地球環境学研究所のプロジェクト「砂漠化をめぐる風と人と土」のメンバーが持ち寄った記事をまとめたものです。

タイトルには私たちのさまざまな想いを込めました。

「風と人と土」は、「環境」のことです。「環境」という言葉には、さまざまな定義や意味があります。私たちは、この言葉をしばしば「風土」に置き換えます。「風土」とは、長い年月にわたり織りなされてきた人びとの暮らしと、それを取り巻く自然や森羅万象との関わりやその現われです。そして、この二文字の間には「人」が隠れていることに気が付きます。それが「風と人と土」なのです。

「フィールド」は、私たちにとって、学びの場と機会に満ちています。訪ねる土地は学校そのものです。そこに住まうお爺さんもお婆さんもおじさんもおばさんも、そして子どもたちも私たちの先生です。これらの記事は、さまざまな土地で出会った人びとと交流するなかで形づくられました。

「環境」—すなわち「風と人と土」—の最小単位は何でしょう？ それは、「私とその周り」です。地球規模でも、大陸でも国でも地域社会の規模でも、そのはじまりは「私とその周り」です。それ故に、環境問題と向き合うことは、自分と向き合うことでもあります。そして、フィールドでの人びととの「出会い」は、自分自身への語りかけでもあります。

この本を手取る多くの方々にとって、アフリカやアジア—それも、車に揺られ埃にまみれたどり着くのに丸一日を要するような片田舎—は、今なお遠い世界かもしれません。それでも、研究のため訪れた土地で、見たり、聞いたり、おしゃべりしたり、感動したり、触ったり、嗅いだり、味わったり、あれこれ考えたりしたことを、みなさんと共有したいと思います。

みなさんのなかの誰かと、いつかどこかで出会い、一緒にフィールドを歩けることを願っています。

なお、このエッセイに掲載する記事の幾つかは、一般財団法人「地球・人間環境フォーラム」の月間環境情報誌・グローバルネットに掲載されたものを加筆修正したものです。

「砂漠化をめぐる風と人と土」プロジェクトリーダー

田中樹